

浦安音楽ホールのあり方に係る有識者からの意見について

浦安音楽ホールについては、存廃も含めた今後のあり方を検証するため、平成 29 年 7 月に副市長を委員長とする「浦安音楽ホール検証委員会」を設置し、整備経緯の整理、存続あるいは廃止した場合の比較、運営に係る課題と対応の検証等を進めてきたところです。

同ホールの検証を取りまとめるにあたって、客観的な立場から、行政施策、法務、財務に係る専門的知見をいただくため、有識者へ相談を行い、以下のとおり意見をとりまとめました。

【有識者からの意見】

■浦安音楽ホール検証委員会報告書（案）の内容について

- ・音楽ホールの整備は浦安駅前の再開発という他の政策課題と同時に進行しており、そこがわかりづらい。浦安駅前の再開発と切り分けながらも、背景として理解できるように、土地交換に至った経緯について記載する必要がある。
- ・土地交換について記載したほうが、なぜ新浦安駅前に音楽ホールを整備することになったのかが伝わるのではないか。
- ・土地交換の背景についてももう少し丁寧に記載しないと、音楽ホールを整備するまでの流れがわかりづらい。
- ・継続と廃止のケースの比較をする場合には、費用だけでなく便益も比較しなければ適正でない。廃止した場合の代替施設は、音楽ホールよりグレードを落とし、整備工事費用や指定管理料を試算しているため、便益が低くなっている点も見落としてはいけない。便益については、現在の音楽ホールの方が高いことを記載すべきではないか。
- ・廃止した場合の代替施設と音楽ホールの利活用を比較し、代替施設より音楽ホールのほうが便益が高いことを記載しても良いのではないか。

■浦安市に高質な音楽ホールを整備したことについて

- ・都心に近い浦安市が、ある程度のレベルの音楽ホールを有していることは良いのではないか。ただ、音楽ホールとしては、最低でも 400～500 席は必要だと思う。
- ・音楽ホールの整備は唐突に決定された感があり、計画行政の観点からは首をかしげる点はあるが、震災後の市民を元気づける前向きな施策として文化施設を整備したことは意義がある。整備したものは、活用すれば良い。
- ・300 席は席数としては少なめであるが、周辺に多くの音楽ホールが存在する中で後発である浦安市としては、“他の施設と競合しない”ところを狙うという考え方も

できる。例えば、小さいホールだからこそ、4～5人の演奏家を呼んで安価な入場料でコンサートを開催するなど、特徴を活かすことができるのではないかと。

- ・現在の場所に音楽ホールを整備する必然性は感じられない。新浦安駅前に市民文化活動のための施設を整備しようとするまでは納得できるが、なぜ音楽ホールであったかということが伝わってこない。例えば、市の文化・芸術政策の中での意義や、その中で音楽ホールの必要性が整理され、コンセプトを明確に打ち出し、全面に押し出すのであれば、整備することも有り得ると思うが、経緯を見ると、音楽ホールの整備が必然であると考えられる理由にはなっていない。市の音楽を含めた芸術文化活動への支援を総合的に見たときに、音楽ホールの位置付けをコンセプトとしてしっかり示すことが必要だ。

■民間施設を賃借し公共施設を整備することについて

- ・公共施設の整備方式としては、今後、PFIや民間と共同の施設など、様々なタイプの施設が登場してくると思うので、市の施設だからといって市有地に整備しなければならないということはない。民間の土地に整備することも十分に考えられる。
- ・民間施設を賃借することも1つの方法であるが、PPPなどが望ましい。
- ・時代に沿ってニーズが変わるため、民間施設を賃借するならば、他に転用できない施設ではなく、転用ができる施設を入れ、転用できない特殊な施設は市が独自で建設する、といった棲み分けが必要である。
- ・一度に全額を支出する所有権方式では、議会等で一度しっかりと議論して決めれば済むのに対して、賃借方式では毎年予算書に債務負担行為が記載され、議会等で毎年その是非について同じ議論が繰り返されることが予想される。整備方式により議論の仕方が異なるのはおかしいように思う。これを回避するための方法は無いだろうか。例えば、残りの賃料を一度に拠出して信託にする方式など。

■賃貸借契約の期間や内容について

- ・施設の特異性を考えると30年という期間になったことはやむをえないが、一般的な賃貸借契約の期間としては長く、そのような事例は極めて少ない。
- ・民間の建物を賃借する場合、30年という期間は長過ぎるのではないかと。
- ・通常の賃貸借契約の期間は3年や5年である。3年契約や5年契約であれば、見直しの機会もあるので、30年という契約期間は市にとって不利なのではないかと。
- ・市民のニーズは変化するので、ニーズを確かめながら、公共施設のあり方を見通していくことが必要だと思う。30年と期間を固めてしまうより、多様な活用方法を念頭に置きながら方向性を判断していくことが必要。短期間で柔軟に考えていく必要がある。
- ・契約内容について柔軟な見直しができるようになっていけば良いが、その規定はない。

- ・30年という契約期間について長期だから不利だとの認識のようであるが、音楽ホールが市民のニーズに合わなくなった場合に30年で廃止する選択肢があるとも考えられる。したがって、一概に不利だとも言えないのではないか。

■賃料について

- ・交渉すれば賃料は下がるという前提で報告書は記載されているように思うが、将来的に新浦安駅前の価値が高まれば、賃料が上がる可能性も十分にある。
- ・土地交換の合意前に音楽ホールの建設が決まっていたのであれば、賃料減額について交換の条件の1つとすることもできたかもしれない。
- ・賃料をいかに安くするかは交渉だけではなく、場合によっては施設を買い取るという考え方があっても良いのではないか。
- ・賃料の交渉にあたっては、様々な視点に立ち、事前に十分な資料を準備することが必要。
- ・市と違って、個人や民間企業では相続の発生など30年間で先方の事情が変わることが十分考えられる。区分所有方式で公共施設の部分のみ取得する、あるいは建物全体を取得するといったケースも想定しておくべきではないか。
- ・一方で、市が施設を買い取るという場合には、施設の恒久化の是非や権利関係の処理など買い取りに伴うデメリットについても念入りに検討すべき。

■継続と廃止について

- ・現市長が施設のあり方について疑問を持つのであれば、整備から間がない施設を短時間で廃止すると判断することも、“市長の姿勢を見せる、筋を通す”という意味では意義を持つのではないか。しかしながら、実際は廃止にかかる費用など総合的かつ現実的に判断することになり、コストをかけて廃止するよりは、継続する方が合理的であると考えられる。
- ・整備して間もないので、もう少し様子を見ても良いのではないか。
- ・文化的な面でも浦安に良いイメージを持ってもらうため、音楽ホールを継続することも考えられると思う。浦安に、いかに都民など市外者を呼び込むかを考えるべき。舞浜のテーマパークは多くの人が訪れるが、舞浜に訪れる人とは異なる層の人が浦安に訪れることは、価値のあることだと思うので、積極的に本事業を進めて良いと思う。

■音楽ホールの運営に関し、取り組むべき具体策について

- ・音楽ホールとしてのコンセプトや、浦安の音楽ホールの固有性を明確にし、周知する必要がある。
- ・市民に市の方向性を伝えて、音楽ホールのコンセプトについて共通理解を得ることが必要になる。

- ・音楽ホールと市民との接点を増やすことは、市民の満足度を上げることに繋がると思う。「我々のホールだ」と市民が思うような仕組みが必要。船橋のきららホールは、新人の音楽家を多く呼ぶなど、多角的なコンセプトや、団体・学校などとのネットワークを活用することで稼働率を上げていた。
- ・コンセプトを明確にするべき。例えば、学生のコンサートの場所として提供する、新人の音楽家の登竜門にするなど。コンセプトの明確化により効果が出て、音楽ホールが有名になれば、ある程度の支出はやむを得ないと考えられるようになるのではないか。
- ・収支だけを検討するよりも、音楽ホールをシンボル化するためのコンセプトを明確にするほうが現実的であると思う。例えば若手音楽家の登竜門の場など。
- ・特定の分野におけるコンクールを実施するなど、音楽ホールの価値を高める施策を行ってはどうか。
- ・音楽ホールに演奏を聴きに行った際、飲食の提供をしているのを見かけたが、利用している人も少なく魅力に乏しいように感じた。そのコーナーについてももう少し利用されるように見直した方がよい。
- ・音楽ホールという名前になっているので、コンサートホール以外の施設が広く知られていないのではないか。実際には、床面積の半分は多目的ホール、スタジオ、ロビー等で占められている。ネーミングを変更するなど、コンサートホール以外もPRするようにしたらどうか。また、ロビーなどを含め施設全体をもっと活用してはどうか。
- ・長野県茅野市にある茅野市民館は、当施設と同様に駅前にあり、当施設と同規模の音楽ホール、多目的ホールを擁し、他に図書室、スタジオ、レストランなどもある文化施設だが、建築としても評価が高く建築学会賞を取っており、地元の人の誇りとなっているようなので、参考にしてみてはどうか。
- ・新浦安駅からの音楽ホールまでの導線が悪い。また、駅からの案内板が小さくてわかりづらい。
- ・音楽ホールは、新浦安駅前のまちづくりとして一体的に整備したわけではなく、単一施設として整備したので、案内表示が不十分かつ統一感が見られないと思う。音楽ホールだけでなく、市の駅前の施設を総合したサイン計画を策定すると良いのではないか。
- ・指定管理業務について。クラシックの専門家からの視点や、本当に市民受けするものなのかという視点から、コンセプトを明確にして、管理運営について考えていけば良い。公共施設は多目的に活用していかなければならないが、特定の分野に特化した指定管理者のみで運営するには限界がある。様々なネットワークを活用した、幅の広がり指定管理者がコーディネートできると良い。

- ・文化会館と市民プラザ、音楽ホールでは指定管理者が異なるということで、それぞれが同じような事業を行っているように感じる。しかし、施設ごとに特性があるので、その特性を活かせるよう、市全体の施設における文化芸術活動をコーディネートする組織があれば良いのではないかと。例えば、料金は高いが質の良い音響を求める人にはこの施設、音響が悪くても良いので楽しく演奏したいという人にはこの施設、といったようにコーディネートする。指定管理者がそれぞれ努力する一方で、コーディネーターが間に入って調整することで施設の特性を活かした有効活用ができると思う。
- ・コンサートホールは、高質な音楽を提供することができる施設であることから、文化会館など他の施設との棲み分けを図っても良いのではないかと。
- ・音楽業界で浦安音楽ホールがどのような位置づけとなるか調べ、音楽業界から薦めてもらえるように働きかけをすると良いのではないかと。
- ・浦安の音楽ホールが市内外から高い評価を受けることで、今後、市外からも多くの利用者を呼ぶことができると思う。

【相談について】

■学識者

弁護士法人リレーション 弁護士 伊東健次氏
 一般社団法人青山公会計公監査研究機構 主任研究員 平光正氏
 千葉大学 教授 関谷昇氏

■相談日

平成 29 年 12 月 12 日 (火) 14:00～15:00 ※伊東先生
 平成 29 年 12 月 26 日 (火) 13:30～14:00 ※平先生
 平成 29 年 12 月 27 日 (水) 10:30～11:30 ※関谷先生
 平成 30 年 1 月 9 日 (火) 15:30～16:00 ※平先生
 平成 30 年 1 月 16 日 (火) 10:30～12:00 ※伊東先生、平先生、関谷先生
 平成 30 年 2 月 8 日 (木) 11:00～12:00 ※関谷先生
 平成 30 年 2 月 13 日 (火) 17:30～19:00 ※伊東先生、平先生、関谷先生
 平成 30 年 3 月 8 日 (木) 18:00～19:00 ※伊東先生、平先生